

神奈川の知的資源

神奈川県内には、大学をはじめ、国や民間の研究所などが多く立地しており、その豊かな人材により、正に神奈川は知的資源の宝庫となっています。当センターにおいても、県内の大学・研究所等の方々とは、引き続き協力・連携関係を深めていきたいと思っています。

当ジャーナルでは、毎号、県内の大学で活躍されている研究者数名並びに、大学が所有する施設を紹介しています。今号は、次の大学からの研究者及び博物館を紹介いたします。

[研究者紹介]

横浜創英大学 上條 優子氏、小川 史氏
横浜美術大学 高瀬 ゆり氏
横浜薬科大学 田口 真穂氏
和泉短期大学 横川 剛毅氏、矢野 由佳子氏

[博物館・美術館等紹介]

東海大学松前記念館



【横浜みなとみらい21地区の風景】

寄稿いただいた大学の方々に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

神奈川の研究者紹介

氏名	上條 優子 (かみじょう ゆうこ)	
現職	横浜創英大学看護学部在宅看護・看護管理学領域 教授 横浜創英大学 図書館長	
主な経歴	山梨大学医工農学研究科博士課程修了、東京大学大学院医学系研究科健康科学看護学専攻看護管理学分野修士課程修了、米国イェール大学看護学部に研究留学	
専攻分野・研究テーマ	看護管理学 国際看護学 医療安全学 Team-based Learning、Pain Management and Spirituality	
主要業績 (これまで 発表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>患者安全のシステムを創る：米国 JCAHO 推奨のノウハウ。相馬孝博（監修）池田真理、上條優子、斎藤安希，医学書院（2006）。ISBN 4-260-00147-7</p> <p>Y. Kamijo, & T. Miyamura. (2019). Spirituality and associated factors among cancer patients undergoing chemotherapy. Japan Journal of Nursing Science, https://doi.org/10.1111/jjns.12276</p> <p>上條優子、長沼元美、神宮司美千代、他。(2015)。パートナーシップ・ナーシング・システム導入に伴う看護師の時間外勤務時間および看護師の仕事に対する意識の変化。日本看護評価学会誌, 5(2), 53-60.</p> <p>Y. Kamijo, & M. Ichikawa. (2013). Cost information of chemotherapy for cervical and endometrial cancer in Japan. Japan Journal of Nursing Science, 11(3), 190-199. DOI:10.1111/jjns.12020</p>	
神奈川県との 関わり	大学周辺の訪問看護ステーションや地域の中核病院に学生を連れて実習させていただいています。	
メッセージ	かつて看護職は、きつい、汚い、危険を伴う（3K）職業と言われていました。現在、看護師の教育は大学での教育に移行しつつあり、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、介護福祉士等、多職種の専門職とチームを組んで医療を提供する時代になりました。医療チームとして、アウトカムを意識した共通目標を持ち、多様性を受け入れ、心理的安全性を保つようなチーム作りに興味を持ち、研究しています。	
連絡先	横浜創英大学 看護学部 URL : http://www.soiei.ac.jp/univ/	

神奈川の研究者紹介

氏名	小川 史（おがわ ちかし）	
現職	横浜創英大学こども教育学部 教授	
主な経歴	2005年、早稲田大学大学院教育学研究科博士課程教育基礎学専攻修了、博士（教育学） 上田女子短期大学を経て現職	
専攻分野・研究テーマ	社会教育史、演劇教育 主に1940年代～50年代の民衆文化や教育実践を研究	
主要業績 （これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等）	<p>著書</p> <p>『野の語り部 桑の里にひびきあう今むかし』筑波書房、1998年</p> <p>『一九四〇年代素人演劇史論 ―表現活動の教育的意義―』春風社、2021年</p> <p>論文</p> <p>「戦時下における素人演劇運動の研究 ―自発性をめぐる総動員体制のジレンマ―」 『早稲田教育評論』2004年</p> <p>「平澤計七の戯曲にみる労働者の主体と暴力」『社会教育学研究』2015年</p> <p>「暴力行為の物語的理解 宮嶋資夫『坑夫』を題材として」『横浜創英大学研究論集』 2021年</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県保育エキスパート等研修講師（令和4年度）	
メッセージ	<p>敗戦後、日本各地でさまざまな文化活動や教育実践が自主的に行われましたが、それは神奈川県内も例外ではありません。特に京浜工業地帯を中心に、労働者による活発な活動が行われました。注目すべきは、当時数多くの劇団が結成され、演劇が上演されたことです。それまで舞台経験のない人びとが自分たちの表現を求めて演劇活動に参加しました。今でも神奈川県内にはアマチュア劇団が多く存在しますが、そのルーツの一つは敗戦直後にあったのです。</p> <p>おそらく、演劇のような表現は、未経験者にはハードルの高いものかもしれません。しかし、表現を行うことが個々の存在にとって持つ意味は、計り知れません。神奈川県内のさまざまな表現活動がこれからも活発に続けられることを期待します。</p>	
連絡先	横浜創英大学 こども教育学部 E-mail : cogawa@soei.ac.jp	


神奈川の研究者紹介

氏名	高瀬 ゆり (たかせ ゆり)	
現職	横浜美術大学テキスタイルデザインコース 准教授	
主な経歴	多摩美術大学大学院 美術研究科デザイン専攻修士課程修了 多摩美術大学二部デザイン科、横浜美術短期大学で非常勤講師として勤務。インテリアファブリックブランドのアートクリエイター等を経て2015年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	テキスタイルデザイン。ファブリックプロダクトとアートとの融合を目的とした“カーペット、ラグ”の研究。	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>1985年よりグループ展、個展多数。</p> <p>【主なグループ展】「The Strange Creature」ストックホルム国立美術学校 (1988) 「テキスタイルワーク展」札幌芸術の森工芸館 (1996)「意向する繊維-時の波動展」多摩美術大学美術館 (2004)「ARTS & CRAFTS FOR DALI」諸橋近代美術館 (2019) 他</p> <p>【主な個展】「Another Field」調布パルコ (1990)「Spring Field」TSS 東京ガスショールーム (1996) 「Jaune」「クレーの部屋」ギャラリーパリ (2013, 2015)</p> <p>【作品収蔵】 デザインツール for DALI (諸橋近代美術館 休憩コーナー) 日本デザイン学会環境デザイン部会所属</p>	
神奈川県との関わり	<p>2014～2016年「横浜スカーフ研究会」：横浜市経済局 工業技術支援センターと関連企業 学識経験者との協働による横浜スカーフ資料のアーカイブ化を行う。</p> <p>2014年「横浜トリエンナーレ2014」連携事業として市内7中学校でのテキスタイルワークショップ「ポコス」を実施。(横浜市芸術文化教育プラットフォーム)</p>	
メッセージ	<p>美術大学での新しいテキスタイル教育のプログラムを研究しています。50年前まで使用されていた手動式フックガンを本学オリジナルで復刻生産し、フックドラッグ技法によるラグデザインを美術大学として初めて教育に取り入れています。手わざによる表現の美しさはものづくりの触覚を極めます。テキスタイルのデザイン力や表現力、手触りの心地良さは人を幸福にします。テキスタイルの役割を担い、社会に貢献するクリエイティブな人材の教育を目指しています。また、現在本学の地域連携センター主任として積極的に地域や社会との連携活動を推進しています。美大としてのノウハウやスキルを活かし評価を得ています。アートやデザインはまさにコミュニケーションツールとして可能性を無限大に秘めています。神奈川県内の地域課題解決や地域づくりに積極的に参加し、アートやデザインの力を地域の活性化に役立てたいと考えています。</p>	
連絡先	<p>横浜美術大学 テキスタイルデザインコース 〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 1204 電話：045-962-2221 (代表) E-mail:yuri-t@yokohama-art.ac.jp</p>	


神奈川の研究者紹介

氏名	田口 真穂 (たぐち まほ)	
現職	横浜薬科大学 レギュラトリーサイエンス研究室 准教授	
主な経歴	横浜市立大学大学院医学研究科前期博士課程修了、薬学博士、東京医科大学病院薬剤部、ウィスコンシン医科大学 Research Scientist、キリンビール基盤技術研究所研究員、横浜市救急医療センターを経て、横浜薬科大学講師、2021年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	医薬品の適正使用、薬物乱用防止、緩和医療、地域医療と薬局機能、学校環境衛生に関する研究。がんの院内製剤研究等	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】処方管理学, 南山堂(2017年)、学校環境衛生管理マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践, 文部科学省(2018年)、モーズペーストを使いこなす, 学研(2021年)等</p> <p>【論文】Evaluation of Tumor Tissue Fixation Effects of Formulation Modified Mohs Pastes in Mice and Their Water-Absorbing Properties(2018年)、Analysis of drug adverse events in elderly patients based on the Japanese Adverse Drug Event Report Database(2022年)、高齢者の口腔内環境に多剤併用が及ぼす影響(2022年) 他多数。</p> <p>【受賞】令和元年度日本緩和医療薬学会優秀論文賞、第31回学術大会日本老年歯科医学会優秀ポスター賞(令和2年)、第11回レギュラトリーサイエンス学会学術大会優秀ポスター賞、第54回日本薬剤師会学術大会ポスターセッション最優秀賞(令和3年)等</p> <p>【委員】文部科学省「学校環境衛生基準改訂に関する委員会委員」、横浜市学校保健審議会委員、ヨコハマ未来戦略委員、特別支援学校の学校運営協議会会長等を歴任</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県立高等学校の学校薬剤師および建築物環境衛生管理技術者を担当 神奈川県の薬物乱用防止教室指導者講習会などで講演を実施	
メッセージ	<p>現在、人口の3人に1人が高齢者という超高齢化社会を迎えています。今後、少子化により支え手となる現役世代は減少し、支えられる高齢者の割合の増加が続きます。よって、これまでの行政サービスや医療や介護、年金などの社会保障制度などを持続可能な仕組みへ工夫していく必要があります。</p> <p>横浜薬科大学は地元の戸塚区にて、医療・介護・福祉・子育ての視点から課題をとらえるヘルスケア型リビングラボの活動に参画し、行政、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業所、福祉施設、学校、子育てNPO、企業等と連携して、防災・減災や高齢化社会が抱える様々な社会課題の解決に取り組んでいます。</p> <p>また、学校での様々な感染症対策について、学校薬剤師は公衆衛生の専門家の立場から指導助言を行っています。私は、主に換気の研究を通じて、適切な指導・対策を実施して生徒たちが安心安全な学校生活を送れるよう啓発活動をしています。</p>	
連絡先	横浜薬科大学 臨床薬学科 レギュラトリーサイエンス研究室 〒245-0066 神奈川県横浜市戸塚区俣野町 601 電話：045-859-1300(代表) E-mail：m.taguchi@yok.hamayaku.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	横川 剛毅（よこかわ ごうき）	
現職	和泉短期大学児童福祉学科 教授、社会福祉士	
主な経歴	1993年より神奈川県職員。2005年より和泉短期大学教員。 東海大学大学院文学研究科コミュニケーション学専攻博士後 期課程単位取得退学。保健福祉学修士。	
専攻分野・ 研究テーマ	障がい者福祉学 知的障がいのある人への適切な支援	
主要業績 (これまで発 表した著 書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>【著書】（いずれも共著）</p> <p>「知的障害援助専門員養成通信教育テキスト 知的障害者援助技術」（2016年）</p> <p>「子ども家庭支援」（2020年）</p> <p>【論文】</p> <p>「重症心身障害児・者支援における意思決定支援に関する基礎研究」（2020年・共著）</p> <p>「遠隔による短期大学認証評価に関する考察」（2021年・単著）</p> <p>【委員等】</p> <p>横浜市福祉サービス第三者評価推進委員会 副委員長（2014年～2020年度）</p> <p>相模原市総合計画審議会 委員（2016～2017年度）</p> <p>日本短期大学基準協会 自己点検・評価 評価員（2016、2019、2020、2022年度）</p> <p>社会福祉法人理事、障がいのある人の生活する施設 第三者委員など</p>	
神奈川県と の関わり	1993年に県職員として採用されたことを機に神奈川県に転居。以来県内に在住。	
メッセージ	<p>施設職員として勤めている際に、これから支援者になることを目指す人に伝える職に就きたいと考え、大学院へ進学することを許可していただきました。その経験から、働きながらの学びが許容される社会、視野と領域を広げアップデートすることの大切さを肌で感じました。</p> <p>現職場は、卒業後に保育者となる人が多いです。福祉の学びから、その重要性を伝え、福祉マインドを保育現場で生かす人材養成を心がけています。また、福祉現場に勤める人もおります。「支援員は、誰に何をすることで給料をもらう職業なのか」という原点を見失わせないようにしたいです。そのために、かつて支援員であった者として、授業だけでなく日頃の言動や姿勢で学生に示していきたいです。</p> <p>今後は、県内の優れた実践家へのオーラル・ヒストリー（口述記録）に、是非取り組みたいと考えています。</p>	
連絡先	和泉短期大学 〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1 電話：042-754-1133（代表） E-mail:yokokawa@izumi-c.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	矢野 由佳子（やの ゆかこ）	
現職	和泉短期大学児童福祉学科 准教授 臨床心理士/公認心理師	
主な経歴	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士前期課程修了 助手などを経て2004年より和泉短期大学児童福祉学科専 任講師、2010年より現職。臨床心理士として保育所に勤務。	
専攻分野・ 研究テーマ	発達心理学・臨床心理学 保育者の感情制御とメンタルヘルス、乳幼児の心理臨床	
主要業績 （これまで 発表した著 書、論文、 行政委員 の経験等）	<p>【著書】 『なぜ？から探る子ども理解と援助（シリーズ 知のゆりかご）』（共著）みらい、2022</p> <p>【論文】 『保育者養成におけるメンタルヘルス教育』（単著）和泉短期大学教職研究第3号、2020 『環境の変化に対する感情と行動 - コロナ禍に伴う環境の変化に着目して - 』（単著） 和泉短期大学教職研究第4号、2021</p> <p>【委員等】 相模原市男女共同参画審議会 委員（2016年～）</p>	
神奈川県と の関わり	神奈川県で出生し、神奈川県在住。2004年より相模原市の短大に勤務。	
メッセージ	<p>保育や教育、介護等に携わる対人援助職は、子どもや児童、生徒、利用者との関わりを通して楽しみや喜びを見出す場面が多くあって欲しいと願っています。しかし多様な人と接する中で、困難や葛藤も抱えます。支援者が支援されることは、心身ともに健康を保って仕事を続ける上でとても重要だと学生にもよく話しています。また、保育では子どもの主体性を尊重することを大切にします。誰もが同じことに興味を持つわけではありませんし、個々に寄り添うことは、子どもの安心感、自己肯定感にもつながります。では、保育者の主体性は尊重されているのでしょうか。保育者の意思や考えが尊重され、仮にそれが適切でない場合や、力量が不足している場合には、頭ごなしに否定せず、望ましい方法を一緒に考える人が周りにいたら、保育者として成長するきっかけになるのではないのでしょうか。そのようなことを考えながら、質の高い保育者の養成と現場の先生方の応援をしていきたいと思っています。</p>	
連絡先	和泉短期大学 〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1 電話：042-754-1133（代表） E-mail:yano@izumi-c.ac.jp	

松前記念館（東海大学歴史と未来の博物館）

東海大学は、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人づくりを通じて「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を掲げています。創立者・松前重義の思想と業績を後世に伝えるとともに、東海大学の建学の理念を継承し、学園が理想とする教育研究に資することにより、広く社会に貢献するのが松前記念館の使命です。

1. 松前記念館の沿革

大学の建学40周年記念事業の一環として1983年の建学記念日に開館した当館は、2004年に博物館相当施設の指定を受けました。その後、大きく変化する世界において、本学が掲げる理念とそれに基づく教育・研究活動は、ますます重要な使命を帯びてきました。そこで2022年の建学記念日を期に、当館では段階的にリニューアルを開始し、東海大学の歩んできた歴史と、そこで「文明」「文理融合」の眼差しとともに育んできた「知」の集積を、しっかりと次世代へ継承し、地域や国際社会とともに未来を創造していく、新たなミュージアムを目指していくこととなりました。

2. 松前記念館の特色

本学は、国内最大級のアンデス先史文明に関する遺物（アンデスコレクション）や古代エジプト及び中近東コレクションなどの貴重な学術資料を所蔵しています。リニューアルの柿落としの企画展は、これらを活用した「古代アンデスの音とカタチー先端科学で解き明かす東海大学コレクション」です。古代文明の遺物に、数々の先端技術の光を当てることで、遠い過去から時空を超えて現代人に継承される「人間らしく生きる喜びー感性のみずみずしさ」を訴えかける——この企画には、近い将来の松前記念館を目指す「学問分野の界を越え」「ともに学び」「その成果をデジタル資産として残していく」ーまさに館の愛称である「歴史と未来の博物館」へ向けたステップ、試みがふんだんに盛り込まれています。知識偏重教育を取らず幅広い視野と柔軟な発想力を育む人づくりを目指す大学の教育研究をサポートする新たなミュージアム構想です。

リニューアルした1階展示室では創立者の世界的発明として知られる無装荷ケーブル通信方式やその多重通信の技術を応用したFM東海（民間で日本初の超短波[FM]放送実験局）の展示など情報通信の技術史も紹介しています。尚、2階展示室では今後、「建学の理念」「先駆けであること」「総合大学への道」の3ゾーンによる学園の歴史を中心に、本学の教育の源流にあたる望星学塾や内村鑑三、デンマークのフォルケホイスコーレに関する資料、学園創設期の資料などを展示予定です。

3. 地域との連携

ユニバーサル・ミュージアム（誰もが楽しめる博物館）の実践の一環として、2020年から神奈川との連携による「ともいきアートサポート事業」を開始し、近隣の盲学校や養護学校との連携成果をロビー展示（期間限定）で紹介してきました。また県内の博物館と連携し、台風で被災した博物館資料のレスキュー活動や、屋外彫刻のメンテナンス活動など、文化財や博物館資料の保存と活用に関する実践に学生とともに取り組んでいます。

4. ご利用案内

開館時間 10:00~17:00（入館 16:30）
休館日 日曜日・祝日・大学の休みの日
入館料 無料
問合せ先 kinenkan@tsc.u-tokai.ac.jp
交通アクセス 小田急線（新宿より快速急行約60分、小田原より約25分）「東海大学前」駅下車徒歩約15分、または『秦野駅行き』『下大槻団地行き』バス（約5分）で「東海大学北門」下車。／JR東海道線「平塚」駅下車『東海大学行き』または『秦野駅行き』バス（約30分）で「東海大学正門前」下車徒歩約5分。